びわ湖トラスト　朽木　秋の「大トチノキ」観察会

後援：大津市教育委員会、巨木と水源の郷をまもる会
実施日：平成 27 年 10 月 24 日

びわ湖トラストが実施するトチノキ観察会は、昨年から春と秋の年2回開催されるようになった。観察会には、グリーンウォーカネイチャークラブ代表の青木繁先生を毎回講師としてお招きし、トチノキや周囲の野花や生き物についてご説明いただいている。

今年で4年目となるトチノキ観察会への参加者も徐々に増えてきており、今回は、トラストのスタッフと参加のご家族、更には、カナダ人やフランス人の参加者も合わせて 43 名になった。リピーターの方も増え、中には小学生の低学年のお子さん自ら友達を誘って参加されていたりするなど、トチノキをきっかけとした森林の自然に対する興味を着実に持って頂けている事を感じた。

今回の観察会は天候に恵まれ、快晴で秋のさわやかな陽気の中、トチノキへ至る山道を登っていった。今回は、拠点となる山帰来から車で 5 分程度の場所まで移動し、前回までの観察会とは異なる場所にあるトチノキを見学した。目的地まで至るルートはストックが無くても登れるこれまでよりも登りやすい道で、途中には淡い緑色の苔に覆われた倒木群の幻想的な姿や、風に舞った多数の紅葉が雪のようにヒラヒラと舞い降りてくる様子などが見られ、初心者や小さなお子さんも周囲の景色を楽しみながら登る事が出来た。

そうやって登る間も青木先生は随所で解説を加えて下さっていた。ふいに飛んできたハチを見てはその名前（キイロスズメバチ）と特徴と身の守り方、途中に見られたぬかるみのわずかな凸凹を指してシカやイノシシが通った跡や体を擦りつけた跡、木の幹を指してクマが皮を剥いだ跡、割れかけたトチノミを拾ってトチノミの外殻が持つ役割など、正にその場でしか体験できない自然の見つけ方であり、そこから自然を守るための努力など、人が自然と共に生きる術を丁寧にお話し下さった。参加者の方々も、普段は触れる事は無いか、あっても見過ごしがちな、様々な自然を目にしながら、青木先生の話に興味深く耳を傾けていた。

目的地のトチノキ周辺では、青木先生から、その大きさや希少性、山に対する保水能の高さ、人々の生活との関わり、トチノキの現状、保全に対する取り組み、などを解説いただき、参加者の皆さんにトチノキへ直に触れてもらって、そのスケール感を観察・体験して頂いた。

下山して昼食の後は、スプーンやバターナイフ作り体験をした。昼食は山帰来でカレーライスとサラダをいただいたが、いずれも地元の肉や野菜をふんだんに取り入れたもので、運動をした後の子供たちの旺盛な食欲が印象的だった。スプーンやバターナイフ作りは、地元のチェリーやパイン、トチノキを原料として、荒い目から細かい目までの様々なやすりを用いてその形を磨き出していった。昼食で大はしゃぎしていた子供達も、ここではスタッフの指導を受けながら1時間以上も一心に磨き続けて、自分たちだけの一品を作り上げていた。出来上がった作品は、ハチミツ入りの天然ワックスを付けてそれぞれの木が持つ風合いを更に引き出し、お土産として持ち帰って頂いた。

アンケート結果では、自然を楽しめた、トチノキの巨木をもう一度見たい、またあの山を登りたい、もっと上手にスプーンやナイフを作りたい、今度はトチノキで別のものも作りたい、など、次回も参加を希望する方が多く、子供向けの野外体験イベントとして着実に定着してきたように感じている。多くの皆様にご参加いただけたこの活動も含め、今後も、自然を見つめる機会を設け、その感じ方、触れあい方、を、皆さんと一緒に学んでいきたいと思う。

（文責　青田）